

# 日本民間薬のルーツ - 環日本海域における植物資源の利用 -

著者	御影 雅幸
雑誌名	金沢大学21世紀COEプログラム推進シンポジウム - 環日本海域の植物資源の現状と保全 - :論文要旨集
ページ	1-4
発行年	2003-11-23
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/5583">http://hdl.handle.net/2297/5583</a>

# 日本民間薬のルーツ —環日本海域における植物資源の利用—

金沢大学薬学部：御影雅幸

## The Roots of Japanese Folk Medicine - The Use of Plant Resources in Pan-Japan Sea Area -

Masayuki MIKAGE

*Faculty of pharmaceutical sciences, Kanazawa University, Kanazawa, 920-0934 Japan*

*mikage@mail.p.kanazawa-u.ac.jp*

西洋医学が台頭して広く人々が平等にその恩恵を受けることができるようになる以前は、わが国においても病気の治療は多くは民間療法に依存してきた。西洋医学導入以前のわが国の医療は中国医学が主流であったが、決して一般庶民にまで行き渡るものではなかった。水戸光國公が藩医の穂積甫庵に命じて、優れた民間療法を収録した『救民妙薬集』をまとめさせ、世に広めたのもその現れであったろう。

わが国への中国医学の導入は、初期の頃は朝鮮半島経由であった。記録に残るもっとも古いものは允恭天皇の時に、天皇の病を治するために新羅から医師金波鎮漢紀武が招来したというものである。当時のわが国の医療がどのようなであったかは想像するしかないが、おそらく加持祈祷の類いの原始医療が広く行なわれていたものと思われる。それに付随した民間薬物療法もあったであろうが、仮にあったとしても、中国医学が導入されてそれと融合しなかったことを考えると、さほど有効なものではなかったものと思われる。

その後、わが国では中国医学の導入を積極的に行ない、遣隋使船や遣唐使船が活用された。漢方生薬ももたらされたと思われるが、量的に不十分であったことは想像に難くない。欽明天皇の時には中国から採薬師が渡来していることから、この頃から積極的に漢方生薬として利用可能な日本産生薬の開発が行なわれはじめたのであろう。現在の和当帰、和厚朴、また木通や防己なども容易に発見されたものと考えられる。やがて、こうした薬物の民間薬的な利用が始まったものと思われる。わが国の民間薬を調査するとき、漢方生薬由来のものが多くことに気付く。

また、医療制度も中国に倣い、大宝律令編纂時に取り入れられた。奈良時代になると、鑑真和尚が渡日し、多数の漢方生薬をも携行されたことが知られており、この頃の薬物が正倉院に納められ、現代にまで伝わっている。

時代が下るに連れて中国大陸においても『新修本草』（唐代）や『図経本草』（宋代）などの図入りの薬物書が著わされ、わが国にもたらされ、わが国にも本草学が芽生える。そして、いよいよ明代になって、李時珍が『本草綱目』を著わし、出版されるや否やわが国

にも伝来し、以後わが国でもたびたび再版され、広く世に広まった。『本草綱目』の特色の一つに、李時珍が自ら調査した各地の民間療法を「単方」としてこと細かく記録している点あげられる。当然わが国の民間療法にも影響を及ぼしたことが考えられるが、この点に関するまとまった研究はない。

演者は日本民間薬のルーツを探る目的で、現代に伝わる日本の民間療法と『本草綱目』、また朝鮮半島の民間療法との共通性を調査することにした。こうした調査研究は却って人文科学の領域に入り、自然科学領域では価値が認められにくい、環日本海域の薬用資源を調査する上で避けて通れない。また、本プロジェクトを推進するためには今後はこうした文化人類学的な研究が不可欠であることも自明である。関連する資料は膨大である。今回はまずわが国における民間療法で使用する薬用植物資源の近辺諸国からの影響を探る目的で、向平権六著『能登の薬草』収載の植物種を中心に、『救民妙薬集』と大塚敬節著『漢方と民間薬百科』の内容を考慮し、韓国民間薬に関する資料として朴鍾喜著『韓国民間薬』の内容、ならびに『本草綱目』の内容を調査し比較検討した結果を発表する。

以下に、『能登の薬草』収録の薬用植物を参考にまとめた「能登半島の薬用植物一覧表」を付しておく。なお、この種の研究の完成には各地の有識者からの情報が不可欠である。関連するネットワークの構築が期待される。

## Summary

Japanese traditional medicine has been systematically learned from Chinese Medicines from ancient time. A large part of Japanese folk remedies used until today, too, are thought to be influenced by Chinese Medicines, especially by the descriptions in “Ben-cao-gang-mu” written by Li Shi-zhen in the Ming dynasty of China. To comprehend the actualities of the use of medicinal plant resources in the pan-Japan Sea area, the cultural anthropological studies on those used in East Asia are necessary. To begin with, I studied medicinal plant resources in Noto Peninsula, mainly those described in “Folk Medicine in Noto” written by Gonroku Mukaihira, comparing with the descriptions including those in “Ben-cao-gang-mu” and “Korean Folk Medicine” written by Park Jong-Hee.

表1：能登半島に見られる薬用植物（主たる参考文献：向平権六『能登の薬草』）

（ ）内は漢方生薬名

アカザ科 Chenopodiaceae：アカザ，アメリカアリタソウ，ケアリタソウ，シロザ。アカネ科 Rubiaceae：アカネ（茜草，茜根），クチナシ（山梔子），フタバムグラ，ヘクソカズラ。アカバナ科 Onagraceae：マツヨイグサ。アケビ科 Lardizabalaceae：アケビ（木通），ミツバアケビ（木通），ゴヨウアケビ，ムベ。アブラナ科 Cruciferae：ダイコンソウ，ナズナ（テイレキシ）。アヤメ科 Iridaceae：サフラン（栽培）。イグサ科 Juncaceae：イ（灯芯草）。イチイ科 Taxaceae：イチイ，カヤ（榧子）。イチヤクソウ科 Pyrolaceae：イチヤクソウ。イネ科 Gramineae：イネ（栽培）（粳米），カモガヤ，カリヤス，ササクサ（淡竹葉），ジュズダマ（川穀），ススキ，チガヤ（茅根），ハルガヤ，マコモ，ヨシ（蘆根，葦茎）。イラクサ科 Urticaceae：イラクサ。ウキクサ科 Lemnaceae：ウキクサ（浮萍草）。ウコギ科 Araliaceae：ヤマウコギ（五加皮），ウド（和羌活），キツタ，タラノキ，チクセツニンジン（竹節人參），ハリギリ。ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae：ウマノスズクサ（青木香），ヒメカンアオイ（杜衡）。ウリ科 Cucurbitaceae：アマチャズル，カラスウリ，キカラスウリ（括樓根，括樓仁）。ウルシ科 Anacardiaceae：ウルシ（栽培）（乾漆），ヌルデ。エゴノキ科 Stylacaceae：エゴノキ。オオバコ科 Plantaginaceae：オオバコ（車前草，車前子）。オトギリソウ科 Hypericaceae：オトギリソウ（小連翹），トモエソウ。オミナエシ科 Valerianaceae：オミナエシ（敗醬根），オトコエシ。オモダカ科 Alismataceae：オモダカ，クワイ（慈姑），サジオモダカ（沢瀉）。ガガイモ科 Asclepiadaceae：イケマ，ガガイモ（蘿摩子）。カタバミ科 Oxaridaceae：カタバミ（酢漿草）。カバノキ科 Betulaceae：ツノハシバミ。ガマ科 Typhaceae：ガマ，ヒメガマ（蒲黃）。カヤツリグサ科 Cyperaceae：ウキヤガラ，カヤツリグサ，クログワイ（勃薹，烏芋），ハマスゲ（香附子）。キキョウ科 Campanulaceae：アゼムシロ，キキョウ（桔梗），サワギキョウ，ソバナ，ツリガネニンジン（沙參），ツルニンジン（蔓參）。キク科 Compositae：アキノキリンソウ，アキノタムラソウ，アキノノゲシ，エゾタンポポ（蒲公英），オオジシバリ，オグルマ（旋覆花），オケラ（白朮），オナモミ（蒼耳子），カワラニンジン，カワラヨモギ（茵陳蒿），コオニタビラコ，コセンダングサ，サワオグルマ，サワヒヨドリ，ジシバリ，シラヤマギク，センダングサ，タウコギ，タカサブロウ，ツワブキ，トキンソウ，ニガナ，ノアザミ（小薊），ノコンギク，ノボロギク，ハハコグサ，ハマヨモギ（茵陳蒿），ハンゴンソウ，ヒゴタイ（漏芦），フキ，メナモミ，モミジガサ，ヤクシソウ，ヤブタバコ，ヨツバヒヨドリ，ヨメナ，ヨモギ（艾葉），リュウノウギク。キツネノマゴ科 Acanthaceae：キツネノマゴ。キブシ科 Stachyuraceae：キブシ。キョウチクトウ科 Apocynaceae：テイカカズラ（絡石藤）。キンポウゲ科 Ranunculaceae：アキカラマツ，イヌショウマ，ウマノアシガタ，キクバオウレン（黃連），キツネノボタン，サラシナショウマ（升麻），センニンソウ（威靈仙），タガラシ，トリカブト類（烏頭，附子），ニリンソウ。クスノキ科 Lauraceae：オオバクロモジ（鉤樟皮，烏樟），タブノキ。クマツヅラ科 Verbenaceae：クサギ，クマツヅラ（馬鞭草），ハマゴウ（蔓荊子）。グミ科 Elaeagnaceae：アキグミ。クルミ科 Juglandaceae：クルミ（胡桃仁），サワグルミ。クロウメモドキ科 Rhamnaceae：クロウメモドキ（鼠李子），ケンボナシ（枳椇子），ホナガクマヤナギ。クワ科 Moraceae：クワ（桑白皮，桑葉），コウゾ（猪糞子），ヤマグワ（桑白皮，桑葉），カナムグラ，カラハナソウ。ケシ科 Papaveraceae：クサノオウ，タケニグサ，ヒメエンゴサク（延胡索），ミチノクエンゴサク（延胡索），ヤブエンゴサク（延胡索）。ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae：オオヒナノウスツボ（玄参），カワジシャ，キリ，クガイソウ（草本威靈仙）。サクラソウ科 Primulaceae：コナスビ。サトイモ科 Araceae：カラスビシャク（半夏）ヒメザゼンソウ，ショウブ（白菖蒲），セキショウ（菖蒲）。サルナシ科 Actinidiaceae：サルナシ，マタタビ（木天蓼）。シソ科 Labiatae：イヌコウジュ，ウツボグサ（夏枯草），エゴマ，オドリコソウ（続斷），カキドウシ（連錢草），カワミドリ（霍香），キセワタ，キランソウ，クルマバナ，クロバナヒキオコシ，シロネ，タツナミソウ，ナギナタコウジュ（香薷），ニガクサ，ハッカ（薄荷葉），ヒキオコシ，ヤマジソ。ショウガ科 Zingiberaceae：ミョウガ（生姜）。スイカズラ科 Caprifoliaceae：スイカズラ（金銀花），ソクズ，ニワトコ（接骨木）。スイレン科 Nymphaeaceae：コウホネ（川芎），ジュンサイ，ハス（栽培）（藕節，蓮子，荷葉）。スギ科 Taxodiaceae：スギ。スベリヒユ科 Portulacaceae：スベリヒユ（馬齒莧）。スミレ科 Violaceae：スミレ（紫花地丁），タチツボスミレ。セリ科 Umbelliferae：ウマノミツバ，シャク，セリ，チドメグサ，ツボクサ，ノダケ（前胡），ハナウド（白芷），ハマボウフウ（明党參），ミヤマシシウド（和独活），ヤブジラミ（蛇床子），ヤブニンジン。センリョウ科 Chloranthaceae：ヒトリシズカ。タケ科 Bambusaceae：チマキザサ，ネマガリダケ，ハチク（竹葉，淡竹葉）。タデ科 Polygonaceae：イシミカワ，イタドリ（虎杖根），イヌタデ，オオケタデ，ギシギシ（羊蹄根），サクラタデ，スイバ，ニワ

ヤナギ (扁蓿), ハルトラノオ, ミゾソバ, ヤナギタデ. ツツジ科 Ericaceae : ネジキ, ハナヒリノキ, レンゲツツジ. ツツラフジ科 Menispermaceae : アオツツラフジ (木防已), オオツツラフジ (防已). ツバキ科 Theaceae : ヤブツバキ, ユキツバキ. ツユクサ科 Commelinaceae : イボクサ, ツユクサ (鴨跖草). トウダイグサ科 Euphorbiaceae : アカメガシワ, タカトウダイ (大戟), ナツトウダイ (甘遂). ドクダミ科 Sururaceae : ドクダミ (魚腥草), ハンゲショウ. トチノキ科 Hippocastanaceae : トチノキ. トベラ科 Pittosporaceae : トベラ. ナス科 Solanaceae : イヌホウズキ, ハシリドコロ, ハダカホウズキ. ナデシコ科 Caryophyllaceae : ウシハコベ, カワラナデシコ (瞿麦子), ハコベ. ニガキ科 Simaroubaceae : ニガキ. ニシキギ科 Celastraceae : ツリバナ, マユミ. ニレ科 Ulmaceae : エノキ. ノウゼンカズラ科 Bignoniaceae : キササゲ (梓実). ハエドクソウ科 phrymaceae : ハエドクソウ. ハマウツボ科 Orobanchaceae : ハマウツボ. バラ科 Rosaceae : カジイチゴ, カワラサイコ, キンミズヒキ (龍牙草), クサイチゴ, クマイチゴ (覆盆子), テリハノイバラ, ナナカマド, ナワシロイチゴ, ノイバラ (営実), ハマナス, モミジイチゴ (覆盆子), ワレモコウ (地榆). ヒガンバナ科 Amaryllidaceae : キツネノカミソリ, スイセン, ナツズイセン, ヒガンバナ (石蒜). ヒシ科 Trapaceae : ヒシ (菱実). ヒノキ科 Cupressaceae : アスナロ (栽培), ヒノキ, ネズ (杜松子). ヒメハギ科 Polygalaceae : ヒメハギ. ビャクダン科 Santalaceae : カナビキソウ (土夏枯草). ヒユ科 Amaranthaceae : イヌビユ, ヒナタイノコヅチ (牛膝). ヒルガオ科 Convolvulaceae : ネナシカズラ (菟絲子), ハマヒルガオ (菟絲子), ヒルガオ. ヒルムシロ科 Potamogetonaceae : ヒルムシロ. フウロソウ科 Geraniaceae : ゲンノショウコ. ブドウ科 Vitaceae : エビヅル, ノブドウ, ヤブガラシ, ヤマブドウ. ブナ科 Fagaceae : ウラジロガシ, クヌギ (樺ソク), コナラ. ベンケイソウ科 Crassulaceae : キリンソウ. ホシクサ科 Eriocaulaceae : ホシクサ (穀精草). ボタン科 Paeoniaceae : ヤマシャクヤク (芍薬). マツ科 Pinaceae : アカマツ, クロマツ. マツムシソウ科 Dipsacaceae : ナベナ. マメ科 Leguminosae : アカツメクサ, エゾノレンリソウ, カワラケツメイ, クズ (葛根), クララ (苦参), サイカチ, ジャケツイバラ, トキリマメ, ネムノキ (合歡皮), ハマエンドウ, フジ, ホド, メドハギ, ヤマハギ, レンリソウ. マンサク科 Hamamelidaceae : マルバマンサク. ミカン科 Rutaceae : イヌザンショウ, カラスザンショウ, キハダ (黄柏), コクサギ (和常山), サンショウ (山椒, 花椒), ミヤマシキミ. ミズアオイ科 Pontederiaceae : コナギ. ミズキ科 Cornaceae : ヒメアオキ. ミソハギ科 Lythraceae : ミソハギ. メギ科 Berberidaceae : トキワイカリソウ (淫羊藿), ヒロハヘビノボラズ, メギ (小檗). モウセンゴケ科 Droseraceae : モウセンゴケ. モクセイ科 Oleaceae : アオダモ, イボタノキ, ネズミモチ (女貞子). モクレン科 Magnoliaceae : キタコブシ (辛夷), サネカズラ (南五味子), タムシバ (辛夷), ホウノキ (厚朴), マツブサ. モチノキ科 Aquifoliaceae : モチノキ. ヤドリギ科 Loranthaceae : ヤドリギ (桑寄生). ヤナギ科 Salicaceae : イヌコリヤナギ, ウラジロハコヤナギ, カワヤナギ. ヤブコウジ科 Myrsinaceae : ヤブコウジ (紫金牛). ヤマゴボウ科 phytolaccaceae : ヤマゴボウ (商陸). ヤマノイモ科 Dioscoreaceae : オニドコロ, ヤマノイモ (山藥). ユキノシタ科 Saxifragaceae : アカショウマ, ウツギ, ダイモンジソウ, トリアシショウマ, ヤシャビシャク. ユリ科 Liliaceae : アマドコロ (玉竹), アマナ, ウバユリ, エンレイソウ, オオバギボウシ, オニユリ (百合), オモト, コバギボウシ, ササユリ (百合), サルトリイバラ (山婦来), ジャノヒゲ (麦門冬), ツクバネソウ, ツルボ, ナルコユリ (黄精), ニラ (韭菜子), ノギラン, ノビル, ヤブカンソウ, ヤブラン (麦門冬). ラン科 Orchidaceae : エビネ, サイハイラン, サワラン, シュンラン, シラン, ツチアケビ. リンドウ科 Gentianaceae : エゾリンドウ (龍胆), センブリ. 羊歯類 : イヌガンソク (貫衆), イノモトソウ, ウラジロ, オシダ (貫衆), カニクサ (海金砂), クジャクシダ, クマワラビ, スギナ (問荊), ゼンマイ, ノキシノブ (瓦葦), ヒカゲノカズラ (石松子), マンネンズギ, ミツデウラボシ, ヤブソテツ (貫衆), ワラビ. 菌類 : ケムリタケ, カワラタケ, コフキサルノコシカケ (桑寄生), シイタケ, マツホド (茯苓), メシマコブ (桑寄生). 海藻類 : ワカメ (海帶).